

<ミツキ先生の「weekly/monthly」はホームページに掲載しています>

ミツキ先生の Weekly/Monthly No87. (7/6)

□石川塾のあれこれ 116 ★いしかわライブラリー 新刊紹介★

★大好きな野菜 大好きな料理

/有元葉子/筑摩書房

★天皇皇后両陛下が受けた特別講義

講書始のご進講/KADOKAWA

★ウェブスター辞書あるいは英語を

めぐる冒険/コーリー・スタンパー/左右社

★白土三平自選短編集 忍者マンガの世界

/白土三平/平凡社



□読書の時間② 『しごとば 東京スカイツリー®』 作・絵：鈴木 のりたけ ブロンズ新社



『しごとば 東京スカイツリー®』/スカイツリーに関わった人:設計士、鉄工員、現場監督と職人、クレーンオペレーター、照明コンサルタント、エレベーター工、地元の人びと、広報

絵本作家の鈴木のにたけさんは、一橋大学社会学部卒業後 JR 東海勤務、グラフィックデザイナーを経て絵本作家になった経歴の持ち主。小学生のころは弁護士を夢んでいたそう。さまざまな職業を取材し、仕事の現場や使っている道具、仕事の流れなどを圧巻のイラストで紹介する絵本。いろいろな仕掛を見つけるのも楽しい。興味を持てる仕事にぜひ出会ってほしい。シリーズ全6巻の詳細をご紹介します。今回はシリーズ4作目『しごとば 東京スカイツリー®』から！

●クレーンオペレーター

<しごと紹介>

作業現場に鉄骨をつりあげるタワークレーンの運転をしているのが、クレーンオペレーターです。上空の運転席はひとり乗りで、広さは2畳ほど。上にあがったら、1日じゅう運転席で操縦に集中します。とび工と無線で連絡をとりながら30tもの鉄骨を、正確な場所につりあげます。東京スカイツリー建設のクレーンオペレーターは高い技術が認められた5人だけ。かわりがいないので、体調管理はもちろんのことちこくもぜったいできません。(原文のまま)

<どうぐ>

コントローラー…右レバーで荷あげの速度、左でクレーンの動きを調整する。かんいトイレ…運転席でのおしっこは、じょうごでボトルの中へ。うんちはかんいトイレに。クライミングクレーン…タワーがのびていくのに合わせて、マストとよばれる柱をつみあげ、タワークレーンは自分で高さをのぼしていく。つみあげたマストは100m以上にもなる。 ※イラストと説明文で紹介

<クレーンオペレーターのしごと> 未完の2010年8月の取材から

- 7:00 出勤。トイレをすませ、着がえて今日の作業を確認。
- 7:45、エレベーターで上にあがり、タワークレーンのはしごをのぼって運転席をめざす。
- 到着。きれいな朝の富士山をひとりじめ。
- まずはクレーン全体を見て問題ないか点検する。
- 8:00、作業開始。地上で鉄骨の準備をするのとび工と無線でやりとり。
- 400m下から約15分かけてゆっくり鉄骨をつりあげる。
- 上には鉄骨を受けとるとび工がスタンバイ。とくべつなかけ声で位置を調整。
- 細かい運転技術で、重い鉄骨をピタリととめる。
- お昼は、運転席でおべんとうとカップめん。
- 荷あげの多いときは、1日で40往復も。
- 作業が進み、クレーンは3台から4台に。
- 今日からは、毎朝壁つなぎをわたって運転席に出勤。 ※イラストと説明文で紹介